

授業科目	* 基礎看護学実習Ⅱ				単位	2		
履修	必修	関連資格	高一種免(看護) 養教一種免		ナンバリング	NU11210J		
開講年次	2年	開講時期	前期	該当DP	DP1-2 DP2-1 DP4-1 DP4-2 DP5-1 DP5-2			
担当教員	小田 日出子、隅田 由加里、金山 正子							
授業概要	<p>【実務家教員担当科目】</p> <p>基礎看護学実習2では、以下の目的を達成するために実習を展開するものとします。</p> <p>さまざまな健康レベルにある成人期または老年期の対象者を生活者としてとらえ、既習の知識・技術を活用しながら、科学的根拠に基づく看護を実践する基礎的能力を習得する。</p> <p>看護過程を通して対象者の生活上のニーズを見出すとともに、生活上のニーズを充足するための、原理・原則に基づく看護技術の実践を目指す。また、対象者との関わりや看護実践を通して、看護者としての基本的態度・姿勢を身につける。</p> <p>実務家教員として、臨床看護師として医療現場で培った各健康段階(救急、超急性期、急性期—周手術期含む—、回復期、慢性期)に応じた臨床看護の基礎的知識と技術の活用を前提に、2年次前期までの教育課程を学修した学生を対象に、看護の対象者の生活上のニーズの充足に必要な看護技術の導き出しとともに、根拠に基づく看護の実践を支援する。</p>							
学生が達成すべき行動目標	<p>基礎看護学実習2は、以下1.～5.の実習目標のもと、各個別行動目標(詳しくは2019年度看護学実習要項)の達成を目指して、実際の医療機関に出向く臨地実習を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の対象を生活者として理解することができる。 2. 患者—看護者間の援助的人間関係を築くことができる。 3. 患者の生活上のニーズを判断し、日常生活行動の援助を実施することができる。 4. 看護者に求められる態度・姿勢とは何かについて考え行動することができる。 5. 自己の看護観を育むことができる。 							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	30	20	0	50	100	
知識・理解 (DP1-1)								
知識・理解 (DP1-2)			15				15	
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)			15				15	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)								
関心・意欲 (DP3-2)								
態度 (DP4-1)				10			10	
態度 (DP4-2)				10			10	
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)						20	20	
技能・表現 (DP5-2)						30	30	
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				

<p>1. 看護の対象を生活者として理解することができる。</p> <p>1) 収集した情報を、データベース(M. ゴードンの 11 の機能的健康パターン)の枠組みに沿って、適切に分類・整理できる。</p> <p>2) 分類・整理した情報を、各パターンのアセスメント視点に照らしてアセスメント(解釈・判断)し、各パターンにおける機能不全状況を的確に捉え、説明することができる。</p> <p>3) データベース・アセスメントを基にパターン相互の関係性を考えながら、対象の全体像の概要を図式化することができる。</p> <p>4) 3)で描いた 11 パターン相互の関係図を基に、対象</p>	<p>1. 看護の対象を生活者として理解することができる。</p> <p>1) 指導者または教員助言のもと、収集した情報をデータベース(M. ゴードンの 11 の機能的健康パターン)の枠組みに沿って分類・整理できる。</p> <p>2) 分類・整理した情報を、各パターンのアセスメント視点に照らしてアセスメント(解釈・判断)し、各パターンにおける機能不全状況を概ね説明できる。</p> <p>3) データベース・アセスメントを基にパターン相互の関係性を考えながら、指導者または教員助言のもと、対象の全体像の概要を図式化できる。</p> <p>4) 3)で描いた 11 パターン相互の</p>
---	---

授業計画

進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)
1	<p>基礎看護学実習2(2単位)の詳細については「2019年度 看護学実習要項」を参照。</p> <p>1. 実習単位・時間数：2単位 90時間</p> <p>2. 実習期間：臨地実習は、下記の日程で、4病院に分かれて実施・展開する。 2019年9月6日(金)～9月20日(金) ※土・日・祝日を除く10日間</p> <p>3. 実習時間：臨地実習時間 8:30～15:30, 学内演習時間 9:00～16:00</p> <p>4. 実習概要：1年後期(2月)の「基礎看護学実習1」修了後、約半年を経た2年前期(9月)の実習で</p>	<p>■事前の課題学習 (自主学习 / 演習)</p>	<p>【予習・復習】 実習前の事前学習準備として、各班それぞれに、以下の通り、学内での自主演習に取り組む。 ◆臨地実習前の自主演習の日程： 2019年9月2日(月)～9月5日(木)9:00～17:50、9月7日(金)9:00～12:00 * 上記期間中、基礎看護学実習2に臨む各個人の実習準備を整える目的で、6号館3階看護学実習室を開放する。 * 基礎看護学実習2で求められる生活援助技術及びフィジカルアセスメント技術の実践に備え、1, 2年次の既習の知識・技術の学修状況を振り返り、自身の課題を明確にしな</p>	360分
2	<p>第1回 学内オリエンテーション(全体) ◆日時：2019年8月 日()13:00～16:00(*12:50集合)</p> <p>第2回 学内オリエンテーション(実習施設別) ◆日時：2019年9月6日(金)13:00～16:00(*12:50集合) ◆場所：第1回 学内(全体)オリエンテーション (*集合場所は掲示板で連絡) 第2回 学内(実習施設別)オリエンテーション(*集合場所は掲示板で連絡) ◆内容：(1)学科長挨拶 (2)実習全体に関するオリエンテーション(実習コ</p>	<p>■学内学習 ・オリエンテーション ・グループワーク</p>	<p>【予習・復習】 ・臨地実習前の事前準備として、当該実習で重きを置く生活援助技術及びフィジカルアセスメント技術の実践に備えて、既習の知識・技術を確認する。 ・受持ち患者の理解に必要な既習の知識を整理する。</p>	180分
3	<p>臨地実習(7日間) ◆実習日程： 2019年9月9日(月)8:30～2019年9月18日(水)15:30 (*土・日・祝日を除く7日間) ◆臨地実習初日： 2019年9月9日(月)8:30～15:30</p>	<p>■臨地実習 ■学生カンファレンス(30分)</p>	<p>【予習・復習】 ・「看護過程論」で使用したゴードンの11の機能的健康パターンに関する資料の見直し。 ・ゴードンの11の機能的健康パターンに基づくデータベー</p>	180分

	<ul style="list-style-type: none"> ・病棟オリエンテーション ・受持ち患者紹介 ・受持ち患者の<全体像>把握のための情報収集 ・収集した情報の分類・整理とデータベース・アセスメント 		<ul style="list-style-type: none"> ス・アセスメントのアセスメントの視点を配布資料で確認。 ・一日の振り返り、実習記録の整理 ・課題の調べ学習 	
4	<p>◆臨地2日目: 2019年9月10日(火)8:30~15:30</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受持ち患者の<全体像>把握のための情報収集 ・収集した情報の分類・整理とデータベース・アセスメント ・データベース・アセスメントを基にパターン間の関係性や関連性を検討 ・受持ち患者の<全体像の概要>を図式化 	<ul style="list-style-type: none"> ■臨地実習 ■学生カンファレンス(30分) 	<p>【予習・復習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴードンの11の機能的健康パターンについて教科書、講義資料等を読み返し、アセスメントの進め方を確認しておく。 ・一日の振り返り、実習記録の整理 ・課題の調べ学習。 	180分
5	<p>◆臨地3日目: 2019年9月11日(水)8:30~15:30</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受持ち患者の<全体像の概要>を図式化 ・受持ち患者の<全体像の概要>を1000字程度で記述(文章化) ・受持ち患者の看護上の問題を予測し、特定パターンのフォーカスアセスメントに取り組む ・情報の追加収集 	<ul style="list-style-type: none"> ■臨地実習 ■学生カンファレンス(30分) 	<p>【予習・復習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴードンの11の機能的健康パターンについて教科書、講義資料等を読み返し、アセスメントの進め方を確認しておく。 ・一日の振り返り、実習記録の整理 ・課題の調べ学習。 	180分
6	<p>◆臨地4日目: 2019年9月12日(木)8:30~15:30</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受持ち患者の看護上の問題を明確化し、生活上のニーズの導き出す ・患者の生活上のニーズ充足に必要な看護技術(生活援助技術)の選択 ・直接ケア計画の立案 	<ul style="list-style-type: none"> ■臨地実習 ■学生カンファレンス(30分) 	<p>【予習・復習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「看護計画」について、教科書や講義資料等を読み返し、考え方・記載のルール・表記方法等を確認しておく。 ・一日の振り返り、実習記録の整理 ・課題の調べ学習。 	180分
7	<p>◆臨地5日目: 2019年9月13日(金)8:30~15:30</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受持ち患者の看護上の問題を明確化し、生活上のニーズを導き出す。 ・必要な看護技術(生活援助技術)の選択 ・直接ケア計画の立案 	<ul style="list-style-type: none"> ■臨地実習 ■学生カンファレンス(30分) 	<p>【予習・復習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「看護実践」の振り返りの視点を確認しておく。 ・一日の振り返り、実習記録の整理 ・課題の調べ学習。 	180分
8	<p>◆臨地6日目: 2019年9月17日(火)8:30~15:30</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接ケア計画に基づく看護実践とその振り返り(評価) ・「実習のまとめ」の整理 	<ul style="list-style-type: none"> ■臨地実習 ■学生カンファレンス(30分) 	<p>【予習・復習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「看護実践」の振り返りの視点を確認しておく。 ・一日の振り返り、実習記録の整理 ・実習目標に沿って、日々の看護実践と関連づけながら「実習のまとめ」を整理・記載する。 ・課題の調べ学習。 	180分
9	<p>◆臨地7日目(臨地最終日): 2019年9月18日(水)8:30~15:30</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■臨地実習 ■最終カンファレンス 	<p>【予習・復習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習全般を振り返り、今後 	180分

	<ul style="list-style-type: none"> ・直接ケア計画に基づく看護実践とその振り返り(評価) ・「実習のまとめ」のカンファレンス 	ス(60分)	<p>向けた自己の課題を明確にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習記録の提出に向けた記録内容の充実と書式の整備。 	
10	<p>臨地実習終了後は、学内2日間(2019年9月19-20日)の事後学習日を設けています。ここでは、臨地実習記録のまとめを中心に、実施した看護過程の思考の整理や臨地実習での経験的な学びの振り返りを、学生個々の自主的・主体的な学習を軸に進めていきます。</p> <p>事後学習の主な課題は、</p> <p>1. 実習全般の振り返り及び必要な臨地実習記録の記載</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体像の概要;概要図の見直しと修正・加筆 ・全体像の概要説明(1000字程度)の記述 ・フォーカスアセスメントの記載・充実 ・看護問題の明確化に伴う「生活上のニーズ」の導き 	<p>■事後学習(自主学習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日目:個々の課題達成に向けた自主学習、個別面接 ・2日目:課題達成に向けた自主学習 	<p>【事後学習での課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [全体像の概要]図の見直しと[全体像の概要説明](1000字程度)の記述に取り組む。 2. 特定したパターン(最低1パターン)のフォーカスアセスメントの充実に取り組むとともに、患者の「看護問題」を明らかにし、その「生活上のニーズ」を導き出す。 3. ケア実践の振り返り「看護技術の実践」(様式7)の記録を整え、仕上げる。 <p>なお、実習記録ファイルの最終提出日は下記の通りです。</p> <p>2019年9月20日(金)17:00 (※時間厳守)</p>	2日間(終日)
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				

26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	1年次に学修した専門基礎科目(看護形態機能学Ⅰ、看護形態機能学Ⅱ、感染と免疫、他)および看護専門科目(主に基礎看護学分野の各教科目)の知識・技術の活用が求められる。			
テキスト	基礎看護学実習Ⅱの詳細については、第1回 学内オリエンテーション(全体:2019年8月 日)の折に、『看護学実習要項 2019年度』に基づいて説明を行う。			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	事前の学内学習および病院実習中に、必要に応じて、適宜、紹介・助言する。			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	<p>基礎看護学実習Ⅱへの事前の学習準備として、まずは2年前期履修の「看護過程論」で学んだ「看護過程展開」に必要な知識と「看護過程の展開方法」について、しっかりと復習しておきましょう。</p> <p>基礎看護学実習Ⅱでは、看護の対象者を身体的、心理・社会的側面から総合的に捉える看護師の見方・考え方(=問題解決的思考)を基盤として、対象者の生活上のニーズを導き出し、その充足に向けて、1、2年次に学修した看護の基本技術(コミュニケーション技術、フィジカルアセスメント技術、生活援助技術、診療関連技術など)を用いて、対象者に必要</p>			
達成度評価に関するコメント	<p>課題達成度(実習評価表による三者評価:50%、実習記録:30%)および学習貢献度(実習態度・学習姿勢・グループ学習貢献度など:20%)で評価する。適宜、個人面接を実施し、上記指標をもとに総合的に評価する。</p> <p>1. 課題達成度の評価を目的とする実習評価表による評価(50%)は、5つの実習目標に関する学生の自己評価、臨床実習指導者の評価、及び看護教員評価の三者評価を基に総合的に判断する。</p> <p>基礎看護学領域の最終段階と位置づける当該実習においては、看護学科 DP1【知識・理解】の DP1-2「看護実践に必要な基本的な知</p>			